



9 2022

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: jho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ アフガニスタン家族のために (2面) ☆ ラジオ「信仰の時間」ノ・ネリマ神父 (5面) ☆ ウクライナ人道支援 (3面) ☆ イエスにならう生き方を求めて (6面) ☆ 諸宗教対話委員会活動 黄壁宗 (3面) ☆ 新しくなる典礼 ☆ 生きる (7面) ☆ 使徒職養成委員会学習会 (4面) ☆ 難民移住者 ☆ カテキズムの学び (7面) 広報委員会へのEメールアドレス=jho@osaka.catholic.jp

『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

天は神の栄光を物語り

すべてのいのちを守るための月間によせて

2022年すべてのいのちを守るための月間
日本カトリック司教協議会 会長談話
被造物の声に耳を傾ける

世界のキリスト教諸教派は、ともに、9月1日からアンジの聖フランシスコの祝日である10月4日までを「被造物の季節」と設定し、ともに暮らす家のために祈り、また守るよう呼びかけています。カトリック教会もこのエキュメニカルな活動に参加するよう教皇庁総合人間開発省が毎年呼びかけを行っており、日本では「すべてのいのちを守るための月間」として取り組みが行われています。

今年の被造物の季節のテーマは「被造物の声に耳を傾ける」で、詩編19編2節〜5節から取られています。

天は神の栄光を物語り
大空は御手の業を示す。
昼は昼に語り伝え
夜は夜に知識を送る。
話すことも、
語ることもなく
声は聞こえなくても
その響きは全地に
その言葉は世界の果て
に向かう。

わたしたちは「話せず、語れず、声が届かない」被造物や貧しい人々の叫びに耳を傾けるよう招かれています。あなたが住む地域では、どんな声が聞こえますか？ 人々の圧力によって聞こえないよう押し潰されてしまっている声はありませんか？ どうかこの期間に「わたしたち自身の中の調和、他者との調和、自然やいのちある他の被造物たちとの調和、そして神との調和」といったさまざまなレベルで、エコロジカルな平衡を回復（教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』10）していくことができるよう、祈り、身近で実行することが出来る小さな取り組みを行ってください。

臨時司教総会では、総合的な（インテグラル）エコロジーの取り組みを推進していくためのデスクが司教協議会に新たに設置されました。社会問題としての環境への取り組みにとどまらず、キリスト者が個人として、共同体として、霊的にも、社会的にも神と、自然と、他者と調和して生きていくための取り組みを各教区やカトリック関連団体との連携のうちに進めていきますので、皆様のご協力をお願いいたします。
(2022年7月20日)
日本カトリック司教協議会
会長 東京大司教 菊地功

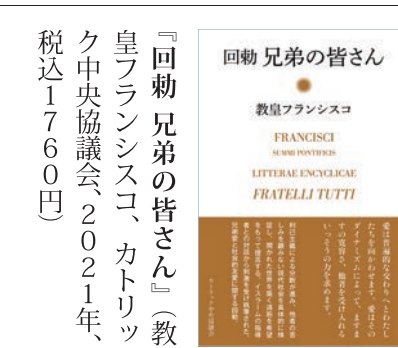
人間は隣どうしにはなりますが、兄弟にはならない
第1章 「閉ざされた世界の間」

「世界に開かれた」——
これは、今日の経済界と金融界で用いられる表現です。……この文化は、世界を均一化はしても、人びとや国々を分断します。なぜならば、社会のますますグローバル化によって、人間は隣どうしにはなりません。兄弟にはならないからです。個々の利益を重視し、実存の共同体的側面を弱める没個性化した世界の中で、わたしたちはかつてないほど孤独です。(12番)

「回勅兄弟の皆さん」(教皇フランシスコ、カトリック中央協議会、2021年、税込1760円)

「回勅兄弟の皆さん」(教皇フランシスコ、カトリック中央協議会、2021年、税込1760円)

汗までもが欠かせない
身体的動き、表情、沈黙、身振り手振り、さらには匂い、手の震え、赤面、汗までもが欠かせないのです。これらすべてによって語るのであり、それは人間のコミュニケーションの一部なのです。友情、安定した相互関係、時とともに成熟する合意、それらをはぐくむ骨折りを省くネット上の関係は、見かけだけの社交なのです。(43番)



「世界に開かれた」——
これは、今日の経済界と金融界で用いられる表現です。……この文化は、世界を均一化はしても、人びとや国々を分断します。なぜならば、社会のますますグローバル化によって、人間は隣どうしにはなりません。兄弟にはならないからです。個々の利益を重視し、実存の共同体的側面を弱める没個性化した世界の中で、わたしたちはかつてないほど孤独です。(12番)

汗までもが欠かせない
身体的動き、表情、沈黙、身振り手振り、さらには匂い、手の震え、赤面、汗までもが欠かせないのです。これらすべてによって語るのであり、それは人間のコミュニケーションの一部なのです。友情、安定した相互関係、時とともに成熟する合意、それらをはぐくむ骨折りを省くネット上の関係は、見かけだけの社交なのです。(43番)

すべてのいのちを守るための特別献金
9月1日-10月3日
酒井俊弘補佐司教

大坂教区 典礼研修会
2022年10月23日(日)
午後2時から4時
カトリック大坂梅田教会聖堂
テーマ:『新しいミサ曲を学ぶ』
講師: 日本カトリック典礼委員会 宮越俊光氏
オルガニスト 三浦優子さん
後日、Youtubeでみる事ができます

INTERNATIONAL DAY 2022
10月16日(日)
各小教区で、国籍を超えた人との交わりをお祝いください。大阪カテドラル聖マリア大聖堂での行事はコロナ感染症対策を講じ、以下の通りいたします。(※詳細は各小教区・団体への配布案内参照)
ミサ 11時~ 原則的に大阪北・南地区対象 (人数制限有り・整理券を配布)
交流会 12時半~16時 出店・ステージなど規模縮小開催・来場は人数制限なし

有償ボランティア事務局員募集
詳しくはホームページをご覧ください。
https://yurikago.site
理事長 人見 滋樹 (元カトリック医師会会長)

ウクライナ人道支援

～ 現地ポーランドから支援者と難民の声～



月修での報告会の様子

2月24日にロシアによるウクライナ侵攻が開始されて早5か月。日本での報道はやや下火となっている。そのような状況下、隣国ポーランドにおいてウクライナ難民支援を行っている兵頭 博校長先生(サンスター日本語学校)からボランティア活動の様子を聴く機会がもうけられた。

活動報告会は2回開催され、7月24日(日)は15時から一般信徒に向けて、27日(水)には司牧者の月修において行われた。急遽決まった報告会だったこともあり、24日の参加者は残念ながら少なかったが、司祭月修では49人が参加した。

報告会では、はじめに、現在ポーランドに避難してきているウクライナ難民の現状を話された。兵頭先生によると、日本の報道とポーランドの現状とは大きくかけ離れているとのこと。自身が撮影した写真を見せながら先生は話されたが、その中には、20時間以上かけてポーランドに到着し、ほっとして笑顔を浮かべる人もいた。その一方で、着の身着のまま逃げてきたこともあり、泊まる場所も食事もできない人が実際多くいることも語られた。

また炊き出しの現場では、毎食4000人以上もの難民が訪れ、熱気が充満し休む間もなく働く支援現場の過酷な現状についても話された。その炊き出し支援も6月30日をもって閉鎖となった。仕事も住居もない人びとが危険を承知でウクライナへ帰っていく現状も伝えられた。

その後、Zoom(オンライン会議ツール)をとおして、ウクライナから避難してきた日本語を学ぶ青年ボグダンさん、一度避難したものの夫のいるウクライナへ戻った女性アンナさん、そして、母親と避難した12歳の少女ミラーニャさんなどの現地からの生の声も聴くことができた。彼らが私たちに望んでいることは、まず現状を知ってもらうことであり、特に少女は平和の実現を願っていた。

兵頭先生は9月には再びポーランドに戻り、独自に子どもたちへの支援を続ける。そのための支援を参加者に広く求めた。

(文 布施教会主任 上田 憲神父)

参加者は数々のケースを聴きながら、非行少年たちは特別な人間ではなく、普通のどこにでもいる人間だが、家庭環境や社会の状況によって非行に走ってしまったという事。



開会礼拝で祈る参加者

それらの体験から明らかにされたのは、非行少年たちは特別な人間ではなく、普通のどこにでもいる人間だが、家庭環境や社会の状況によって非行に走ってしまったという事。

(文 川柳裕明神父)

ら、非行の問題は本人だけの問題ではなく、家族の問題であり、社会の問題であることが理解できた。子どもを中心とした家族の在り方、社会の在り方をどうしてゆけばよいのかということが重要な問題であることが共有できた。今回の研修は子育て・孫育てに悩む世代の福音になる話だったと言える。「子どもを責めるな、親を責めるな」――悲惨な現実の中で語られる温かみのある言葉に、救いを感じた二日間になった。

2021年8月、アフガニスタンでは米軍が完全撤退し、あつという間にイスラム原理主義集団のタリバンが街を闊歩し、現地は大混乱に陥りました。迫害の恐怖から逃れようとする人びとの声を聴き、シナピス(教区社会活動センター)では一人でも多くの人の命が助かるよう活動を始めました。具体的には、日本在住の家族と力を合わせて、日

本へ呼び寄せられるよう努力することです。アフガニスタンから隣国のイランやパキスタンまで退避した人にビザが得られるよう日本大使館にかけあいました。こうして関わった5家族のうち、無事に日本までたどりついたのは1家族だけでしたが、7歳、16歳の子どもを含む4人の命を救うことができました。

この家族に日本へのビザが出たのが今年2月、渡航費は全部で50万円ほどかかりました。このうちの20万円を「すべてのいのちを守るための特定献金」から援助していただきました(本紙2月号3面参照)。「私たちは2021年8月に一度死んだ。そして2022年2月に再び生き返った」。来日したときに父親が語った言葉です。

イランには安全な第三国へ退避できるビザを待つアフガニスタン人たちがいます。日本への呼び寄せは叶わなくても、世界のカトリック教会のネットワークを生かして、一人でも多くの難民を救出できるよう努力を続けています。どうぞ引き続きご支援とお祈りを願っています。

近畿キリスト教教誨師・篤志面接委員連絡協議会 研修会

子どもを責めるな、親を責めるな

7月25～26日(月・火)、プロテスタントの大阪弟子教会(大阪市中央区)にて、近畿キリスト教教誨師・篤志面接委員連絡協議会の研修会が約30人の教誨師、篤志面接委員、信徒の参加で行われた。

研修会の講師は、学生時代から少年非行問題に取り組み、300人以上の非行青少年と関わってこられた野口善國弁護士。講演では、これまでに出会った少年少女との関わりを具体的に話された。

野口弁護士は青少年と一緒に行動し、遊び、勉強する中で、彼らの立ち直りを見つめ続けてこられた。本人や警察からの求めに応じ



アフガニスタン家族のために

昨年の「すべてのいのちを守るための特定献金」の一部があられたアフガニスタン家族の支援。支援活動の概要を伺った。



羽田空港に到着したアフガニスタン避難民の家族(本紙6月号5面「生きる」コラム参照)



第2回 祖父母と高齢者のための世界祈願日

7月24日はおじいちゃん、おばあちゃんと一緒にロザリオを祈ろう！



7月24日(日)14時からドムスガラシア(サービス付き高齢者向け住宅)で、酒井俊弘司教と居住者によるロザリオの集いが行われた。同月26日の聖母マリアの両親、聖ヨアキムと聖アンナの記念日に向けた全教会の取り組みに参加したものの(本紙7月号1面参照)。ドムスガラシアに姉妹が住む修道会からは「ライブ配信を見ながら一緒に祈りました」という感想が寄せられたほか、動画視聴者からは「すべてをささげてこられた修道女の姿が素敵です」「家族皆で父のことを思いながら祈りました」などの声が聞かれた。懐かしいお顔が見られる本動画。少し離れていても、心を合わせて祈りたい。



ようこそ、大阪教区へ！ 司祭紹介



フェリペ・デ・ヘスス・ロペス・オロッコ神父
出身地 メキシコ
生年月日 1972年11月23日
所属 聖ザベリオ宣教会
司牧担当 いずみブロック協力

大阪教区の皆さんへ

2000年に司祭になり、2008年来日し、九州の熊本、大分、宮崎などでの司牧を経て、現在、泉佐野の聖ザベリオ宣教会本部で管区長を務めています。私の名前は長すぎます。父は日本26聖人殉教者の1人である聖フェリペ・デ・ヘススに敬意を表して、私にこの名をつけました。聖フェリペは長崎で1597年に処刑されたフランシスコ会修道士で、メキシコ初の聖人です。これからの希望と夢は、皆さんと信仰を共有し、共に成長していくことです。



朴起徳神父
出身地 韓国釜山市
生年月日 1974年6月1日
所属 韓国釜山教区
司牧担当 日本語研修(司教館居住)

大阪教区の皆さんへ

はじめまして。私はパウロ朴起徳と申します。今年の3月30日、韓国の釜山から参りました。来年の9月まで日本語を勉強することになっています。今、司教館で前田万葉枢機卿様をはじめ、多くの方々のおかげで日本の生活に慣れ初め、元気に過ごしています。いつか皆さんにお会いできることを楽しみにしています。まだ足りないところが多いですが、どうぞよろしくお願いたします。主の恵みと平和がいつも皆さんと共にありますように。

諸宗教対話委員会 黄檗宗との対話

委員会の今年初の活動は、大阪天王寺にある清寿院の隆崎章光住職による黄檗宗についての講演会。6月3日(金)18時半、教区本部事務局会議室で開催され、約40人が参加した。

コロナ感染拡大が少し収まる様子だったので、活動を再開することができた。今年度も状況の見通しが立たないため、春1回、秋2回、冬2回、と計5回の活動しか予定していない。2020年4月に清寿院への訪問が実際に予定されていたが、コロナ禍のため延期となった。現在、お寺ではまだ大勢の人を迎えることができないため、今回は代わりに、住職にこちらへお越しいただくことに

なつた。黄檗宗は江戸時代初期(1654年)、多くの弟子を伴って中国から来た、隠元隆琦禪師(当時63歳)によって開創された。座禅によって悟りを得て仏となるうとするのが禅宗である。日本における禅宗には、黄檗宗、臨済宗、曹洞宗の三宗派がある。宇治の黄檗宗萬福寺は黄檗宗の総本山であり、全国に約420の寺がある。黄檗宗は「普茶料理」、また

日本初の公立図書館を始めた。このように、隠元禪師をはじめとして、多くの黄檗宗の高僧が日本文化に与えた影響は大きい。諸宗教対話に参加し、宗派の違う方々の話を聞くこと、また参加者の質問から新たに広がる対話にはいつも新鮮な気持ちになる。質問に対する講演者の説明で、講演の内容をさらに理解し、納得することがよくある。今回は参加者の多くが質問し、豊かな宗教間対話をもつことができた。視点を変えて物事を見ることが必要な世の中で、物事を識別



黄檗宗清寿院の隆崎章光住職による講演の様子

する力を養うことも必要なのではないだろうか。そのために、諸宗教対話は非常に役立つだろう。皆様にも、ぜひ一度ご参加いただきたい。(文 諸宗教対話委員会 委員 榎原宮子)

池田教会堅信式 十望みにおいて

7月10日(日)10時半、池田教会で6人の中学生の堅信式が前田万葉大司教の司式によって行われた。ナザリオ・プラザ神父、島基幸神父、稲葉善章神父が共同司式。第一・第二朗読、共同祈願、侍者は日曜学校の生徒が担当した。コロナ禍のため、全5地区のうち、1地区の信者に参加制限せざるを得なかった。

「聖霊の導きのもと、すべての人に仕えるように努めてください」と受堅者に語りかけた。受堅者はこの日のために稲葉神父指導による「堅信準備の集い」に参加し、堅信を受けるとはどういうことかを学んできた。



大人の信者として一歩を踏み出した受堅者たちを前に

「私たちの主イエスに従いたいという皆さんの望みにおいて、聖霊が皆さんを励まし、強め続けてくださいますように。また、堅信を受けられた方々の準備と堅信式の挙行に助力を惜しまなかつた稲葉神父様と小教区の委員会の皆さんに感謝します」。(文 池田教会信徒)



派遣の祝福を行う森山新司教 (写真:大分教区提供)



使徒職養成委員会 学習会

カテキズムから読み解くわたしたちの教会

7月2日(土)、サクラファミリア(教区カトリックセンター)で、酒井俊弘司教を講師に学習会が開かれた。テーマは「カテキズムから読み解くわたしたちの教会」。

勉強会は来年のシノドス(世界代表司教会議)の精神を表すキーワード「交わり・参加・宣教」を基に進められた。会場の30数人の対面参加者、ライブ配信・後日の動画受講者とともに、以下の学びを得た。

まず「交わり」について、『カトリック教会のカテキズム』には「交わり」という言葉が多く出てくる。

人間は「神との交わり」に生きるべく創造され、「聖徒の交わり」すなわち「教会」を宣言するところに至る。しかし、人間は日常のさまざまな場面で、その交わりを自ら断ってしまうことがある。

交わりを和解させるのが「ゆるしの秘跡」であり、それをより親密なものにするのが「祈り」である。次に「参加」について。現代を生きるわたしが教会

に能動的な姿勢で参加する必要性が『カテキズム』に示されている。「見えるしるし」としての「典礼」に意識的、行動的に参加し、そこから世界に派遣され、個々の「使命」に参加することが求められる。信者として生きるための両輪といえる。

最後に「宣教」について。宣教における聖霊の導きが『カテキズム』に描かれている。時代も空間も超える普遍的な働きでありながら、その一つひとつは普段の生活の中で繰り返し広げられ、御父と御子の交わりを示すものである。学びの後、みことばに照らした祈りの時間を共に過ごし、神との対話を深めた。(文 使徒職養成委員会)



勉強会の動画

大分教区 スルピス 森山信三司教叙階式

7月3日(日)午後2時、J・COM ホルトホール大分(大分市)で、福岡教区出身でカトリック中央協議会の事務局長を務めていた森山信三司教叙階式が行われた。新司教はミサ後、司教団と参列者に感謝を述べ、こう話された。司教の責任の重さにプレッシャーを感じていた中、読み直した『第二バチカン公会議公文書』の司教に関する教令に、司教とは基本的に「魂の世話をする人」であると繰り返し述べられていることと気づいた。それならこれまでもやってきたことだと思ひ、救われる思いがした。「皆様どうぞ、この小さき者のために祈りください」。

吹田教会の取り組み

ダルニー奨学金と

ともに7年

7月3日・10日(日)の2週にわたって、吹田教会で未就学生徒の就学支援をする「ダルニー奨学金」の支援活動を行った。コロナ禍もあって、今回は2年ぶりの活動。

「ダルニー奨学金(公益財団法人国際センター)制度は、貧困で中学生教育を受けられない東南アジア(タイ、ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー)の子どもたちを支援する国際教育里親システム。吹田教会では、この団体の活動に賛同し、7年前から信徒たちで支援活動を行っている。

吹田教会での主な活動は、各家庭に残っている書き損じや未使用の官製はがき、切手の提供を呼びかけ、それらを集めて、民際センターを介して支援金にしていくこと。一人でも多く、一年でも長く、教育を受けられない子どもたちに与えられるべき教育の機会が与えられることを願いながら活動している。

協力されたい方は、以下の連絡先に未使用の官製はがき(汚れていても可)や未使用の切手(外国切手は交換できないので不可)を送っていただければ、喜んで活用させていただきます。

【送付先】
〒564-0072
大阪府吹田市出口町17-21
カトリック吹田教会 小林正一宛

※ご協力いただいた方には「奨学金証書」が民際センターから届きますので、氏名・住所を明記の上、お送りください。



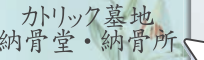
▲この支援にご協力くださった信徒の皆さんと活動を手伝ってくださっている皆さん▼



就学援助できた生徒の奨学金証明書(表・裏)

カトリック墓地 納骨堂・納骨所 使用者募集

大阪教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただきます。インターネットでもご覧いただけます。教区ホームページ右上のこのバナーをクリック▼



資料請求やお問い合わせは 教区本部事務局 管理課 竹中まで ☎ 06-6941-9705



わたしは復活であり、命である。ヨハネ11:25

青年と子どもの鍊成会

2022年10月9日(日) 9時半 カトリック布施教会

〈小学校3年生~中学3年生対象〉

お待たせしました! いよいよ、みんなが待ちに待っていた”顔と顔を合わせて” ”ひとつに集まって” “青年と子どもの鍊成会”を開催します。今回は日帰り開催となりますが、リーダーも神父さんたちもみんなに会えることを心から楽しみにしています。テーマはずばり、「ひさしぶりに集まろう!」です。何のひねりもないですが、ストレートに「みんなに会いたい!」って気持ちが伝わってほしいと思います。久しぶりに行く鍊成会はドキドキ・ワクワクがいっぱい! たくさんの「久しぶり!」が飛び交うのを待っています。(青少年司牧委員会)

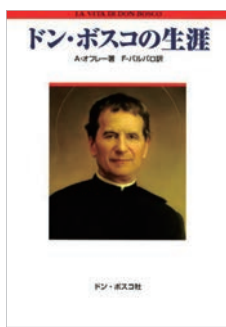
申込フォーム (×切: 9月25日(日)) ▶





司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、高橋聡神

父様(明石教会)が担当。高橋聡神父から



『ドン・ボスコの生涯』(A・オフレイ著、F・バルバロ訳、1964年初版、ドン・ボスコ社、税込1430円)

これは、私が高校生の頃に読んだとき、心に最も深く印象を残した本の一つです。ドン・ボスコという人は、典礼で「聖ヨハネ・ボスコ」として1月に記念日が祝われていますが、彼は青少年に真の希望を与える人でした。この文章を書きながら、神が聖ヨハネ・ボスコにお与えくださった魅力に引き込まれるようにして読んで、当時の記憶がよみがえってきました。

をなげなくふと目にして借りた本で、しかも相当昔に読んだので、もう手に入らないと思っていました。が、この企画の執筆依頼が来た時、恐る恐る調べてみましたら、今でも手に入る本だと分かったので、紹介することになった次第です。

聖ヨハネ・ボスコは青年に夢を与える人でしたが、自身も神から与えられた夢によつて導かれていました。それは、神様ご自身が抱いておられた夢でもあったでしょう。

今私たちが、この本が書かれた当時よりさらに近代化され、砂漠のようなすべてが相対化された、夢も希望もほとんど見いだせないような状況の中に置かれている気がします。だからこそ私たちが、この聖人から何か学べるのではないのでしょうか。そして仲間を見つければ、神様の夢、希望を探し求めていくよう、聖人に励まされるのではないのでしょうか。

ラジオ 信仰の時間

この家に平和があるように

ヌノ・デ・リマ神父 (玉造教会主任、7月3日放送分)

今日、カトリック教会では、72人の弟子が派遣される場面が主日のミサで朗読されます(ルカ10・1~12, 17~20)。イエス様は、ご自分が行くつもりすべての町や村に弟子たちを二人ずつ先に遣わされました。

この派遣にあたって、イエス様は弟子たちにさまざまなアドバイスをなさいます。この箇所を、過去の弟子たちへのアドバイスとして読むよりは、現代社会に生きる私たちへのメッセージとして読んでみたら、心豊かに生きるヒントを見つけることができると思います。

イエス様は、派遣する弟子たちに着る物や履く物について、また持ち物について、あまり心配しないようにアドバイスをなさいます。弟子たちが、イエス様のように自由に歩き回れるようになるために。

イエス様はその他のアドバイスもなさいましたが、今日は皆さんと一緒に、イエス様の一つの言葉について考えていきたいと思えます。それは「どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい」という言葉です(同5節)。

派遣された弟子たちは人びとに平和のメッセージを伝えていきます。聖書の世界では、「平

和」は「シャローム」といいます。現代のイスラエルでも日常の挨拶です。聖書の世界では「シャローム・平和」という言葉は、単に争いが無い状態ではなく、「すべてが満たされている状態」を意味します。そうした意味で、聖書で語られる「平和」は、まず神様の恵み、贈り物です。弟子たちはその平和のメッセンジャーです。出会っていく人びとに『この家に平和があるように』と告げ知らせます。

続いて、イエス様は興味深いことをおっしゃいます。「平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる」(同6節)。

平和は神様の贈り物であるとともに、人間がつくり上げるものでもあります。つまり、平和が実現するには私たちの努力が必要です。弟子たちは平和の輪を広げるために派遣されます。同じ思いをもつ人に出会う場合、自然に平和の輪が広がります。しかし、いつでもうまくいくわけではありません。それは、自分が平和を願っていても、相手が違うことを考えているときもあるからです。そのようなとき、自分の平和が奪われたような気持ちになることがあります。そのようなことに振り回されないようにするには、心の平和を保つことが大切です。イエス様が「平和があなただがたに戻ってくる」と言うのは、「相手がどうであれ、あなたの平和を奪うことはできない」ということではないのでしょうか。

このようにして考えると、平和は私たち一人ひとりがつくり上げるものだけということが分かります。逆に、平和を壊すのも私たち一人ひとりなのです。

最近、ウクライナなどの戦争・紛争地域の

今回は、中川明神父様(明石教会)です。



わたしの声を聞き分ける(ヨハネ10・27)とイエス様は言われましたから。そのようなことも考えさせられるかもしれません。

ため、平和の祈りをささげますが、その意味について考えさせられました。

私たちが「平和がありますように」と祈るのは、一日も早く平和が戻るようにと祈るとともに、一人ひとりが平和を大切に、それぞれの場から平和の輪が広がっていきますように、と願うためです。

ウクライナのためにも、私たちのためにも、この「平和」を大切にしたいと思えます。



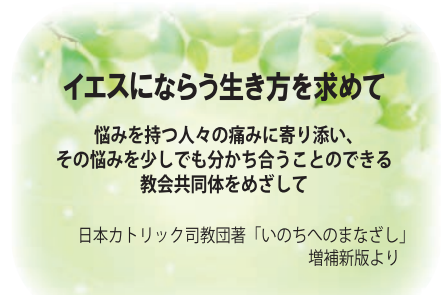
毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
9月担当: 和越敏 神父
ABCラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3
スマホアプリのradikoでも聴けます。

第41回 日本カトリック正義と平和全国集会 大阪大会 2021
分科会動画視聴のお知らせ
2021年11月22・23日(月・火)に行われた大阪大会の30の分科会のうち、戦争や環境問題、心の病などに関するいくつかの録画(動画)が限定公開されました。視聴の方法や申し込みは下記QRコードからご確認ください。
今後も順次動画を限定公開していく予定です。
~誰も置き去りにしない世界に向けて~
No one will be left behind.

大阪カトリック時報は
下記URLでもご覧になれます。毎月1日に掲載されます。Web上でも引き続きご愛読くださいますようお願いいたします。
http://www.osaka.catholic.jp/no_side/jiho.html

大阪教区のカトリック病院
ガラシア病院
特徴的な医療
ホスピス(緩和ケア)
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科
医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父
〒562-8567
箕面市粟生間谷西6-14-1
☎072-729-2345

ひとりで悩まないで
~私たちに聴かせてください~
カトリック大阪大司教区
セクシュアル・ハラスメント
相談窓口
電話番号: 06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時~午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は守られます。



イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、その悩みを少しでも分かち合うことのできる教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」増補新版より

人が善く生きるとは

クラレチアン宣教会司祭

梅崎隆一

ある本に「道徳の授業」という項目があり、こう書かれていました。「一週間に32時間ある授業のうち、この時間だけは『みんな仲良く、助け合って』ということを学ぶ。しかしその他

の授業では全く逆の価値を学ぶ。私たちはミサの中で、「神と隣人を愛しなさい」という、いのちのことにばに耳を傾けますが、終わった瞬間、逆の価値観の世界で生きていくものから、全く同じではないかと痛感します。

道徳や倫理を学ぶとは規則や掟を守ることではないのです。その目的は「人が善く生きるとは何か」を問い続けることだそうです。

そして、より良い法律を生み出すために、私たちは道徳や倫理について探求しなければなりません。ですから「悪法も法なり」などというものはあり得ない話です。法は道徳や倫理を基礎としており、人間が善く生きるための支えにならなければ、その法はどこかおかしいと言えるのではないのでしょうか。キリストは律法の目的が、神のみ旨を行うこと、それ

は神と人を愛することである、と教えました。しかしキリストと対立した律法学者は、律法に固執するあまり、神と人をないがしろにしました。

この世に神はおらず人間しか存在しないなら、人間の決めるべき最高の正しさになりませんから、欲望のままに人を殺すことを最高の正義とすることも可能となります。道徳と倫理は、人間が大好きで、人となり、人の救いのために自らを死に渡した神の存在なしに成立しません。

Human rightsは「人権」と訳されていますが、実際に意味するところは「人としての正しさ」だそうです。個人が人生を通して人間らしさを探求することは、保証されるべきであり、国家が道徳の正解を押し付けることは人権侵害であると言えます。

難民について調べると辞書には、「戦火や震災、生活の困窮などで居所を失い(に居られず)安全な地域に逃げてきた人々」と書かれています。全ての人はどんな境遇においても、人間らしく生きることを妨げられてはなりません。法を規制する日本国憲法の前文には「われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しよう」と努めてゐる国

際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ」とあります。日本国民が「人間が善く生きるとは何か」という問いを現実の中で生き、人の素晴らしさを示していくことは、人間らしい名誉ある仕事であり、それは神のみ心を生きることであると確信しています。

共に生かし合う社会をめざして「外国人住民基本法」の制定を

難民移住移動者委員会 担当司祭 松浦 謙

今年の3月25日に日本カトリック司教団が古川禎久法務大臣に要請文を送りました。日本で生まれ育ちながら、両親が在留資格を持たないために退去するよう求められている子どもたちに日本に留まる許可を与えてくださいという内容のものです(カトリック新聞2022年6月5日号参照)当事者のひとりであるS君は「日本で生まれ育つ僕たちが日本で生きることは悪いことなんですか?」とビデオレターで訴えていました。

これは一つの例にすぎません。今日本に住んでいる外国人の中に、困難や生きづらさを抱える人が大勢います。外国にルーツのある子どもたち、技能実習生、在日韓国・朝鮮人、国際結婚をした外国人などです。低賃金労働を強いられたり、就職差別、入居差別、ヘイトスピーチ、また母語での教育を受けられない、自由に渡航できない、政治に参画できない、などです。日本人と同じように税金も払い、働いて社会に貢献しているにもかかわらず、不当な扱いを受けています。枚岡教会では信徒たちが、差別的な扱いを受けているベトナム人家族を、物心両面から支えようと努力しました(時報2021年12月号参照)。とはいえ、これらの支援にも限界があります。

あるたとえです。「川上からかごに入れられた赤ちゃんが流されて来た。それを見つけた人がすぐに助けた。けれども次から次へと流されてきて、その数は一向に減らない。そこで上流に行くところをそうやって捨てる人がいた。この行為をやめさせなければならぬことが分かった」のです。

つまり、わたしたちは今、助けを必要とする隣人に手を差し伸べると同時に、その根幹にある制度や差別的な法律を改めなければならないのです。その良い例が、まるで犯罪者のように外国人に指紋押捺を強制する「外国人登録法」でした。キリスト教諸教派が一致して反対運動を進め、2000年4月、この法律を撤廃させました。この取り組みはさらに「外国人住民基本法」を制定する運動へとつながっていきました。それは、国籍を問わず、すべての外国人住民に、人間らしく生きる権利を保障しようというものです。その内容は、「子どもの権利条約」「難民条約」などの国際的な人権法にもうたわれているもので、実は日本も既にこれらに加入しているのです。それにもかかわらず、いまだ法整備に至っていません。

日本カトリック司教協議会は、毎年、「外国人住民基本法」制定のための署名運動を呼びかけています。共に生かし合う日本社会の実現に向けて、今わたしたちができることに取り組みましょう。



「共に生き、共に生かし合う社会」の実現に向けて!

美現するまで毎年署名

日本に暮らす外国人は290万人以上、外国にルーツを持つ日本国籍の移住者は推計で170万人、日本は今や「移民社会」それらにふさわしい法制度が必要とされます。

1. 命の尊厳に敬意を払う
2. 世界の多様性を日本に受け入れる
3. 「国籍」ではなく、「権利」を保障する
4. 地域住民として
5. 「同じ」じゃない
6. 人権差別を許さない
7. 学び

外国人住民基本法」制定のための署名

2022年「世界難民移住移動者の日」委員会メッセージ

移民や難民とともに未来を作る

教皇フランシスコは、今年の世界難民移住移動者の日のために、「移民や難民とともに未来を作る」というテーマを選ばれました。全世界では何億もの人が、ともに平穏に暮らし、職を得て生計を立て、家族の未来を築くことのできる場を必死に探し求めています。教皇は、彼らが直面している複雑な状況に鋭い視線を向けておられます。移住の主な要因は、社会をむしばみ、いのちを危険にさらす暴力ですが、自然をないがしろにしたために生じる気候変動も、無数の人々を移住に追いやっています。

日本からも20世紀には、多くの人々が海外に移住し、また、定住難民や各国からの移民を受け入れてきました。その一方で、人間としての尊厳をもって生きる場を求める人の声に、日本で暮らすわたしたちは真に耳を傾けてきたでしょうか。

教皇は全世界に、とりわけカトリック教会の信者に呼びかけておられます。移民と難民は、彼らを受け入れる共同体の教会生活に新たな活力をもたらしています。未来は今日、わたしたち一人ひとりで始まります。正義と兄弟愛と平和のみ国のために、今こそわたしたちは決断すべきです。将来の世代にこの問題を先送りするわけにはいきません。この教皇の呼びかけにこたえて、さまざまな文化と宗教が共存する社会を築き、国籍や民族を越えてともに生きる方法を一緒に探し求めていきましょう。

2022年9月25日
日本カトリック難民移住移動者委員会
委員長 山野内倫昭
担当司教 森山信三



「カテキズムの学び」

第36回「偽証してはならない」(前半)



7月28日にサクラ ファミリアの聖堂に集まった皆さんとライブ配信を視聴の皆さんとともに、十戒の第8の掟である「偽証してはならない」の前半を学びました。講座の様子は上のQRコードから視聴できます。

「偽証してはならない」は言い換えれば「嘘をついてはならない」という掟ですが、根拠になっているのは、神は「真実な方」(ローマ3・4)であり、真理を証しするために来られたキリストに倣うべきだからです。

すべてのキリスト信者は、自分が生活している場所で、模範的生活とことばのあかしをもつて、受洗に際して身につけた新しい人と、堅信によって強められた聖霊の力を現さなければなりません。(2472番)

真理に反する罪としては、偽証、悪口、中傷、へつらい、嘘などが列挙されていますが、掟としては理解しやすいものです。講座では興味深い質問を受けましたので、ご紹介しします。

【問】 商売上の取引などでは、自分の側の手の内をすべて見せることはせずに交渉することも多いが、それは嘘にあたるのか。

【答】 個々のケースによって異なるが、正確な情報を公にするよう定められている場合はそうすべき。そうでない場合は、商取引上の習慣として双方が認識している範囲内で「手の内を明かさない」ことは許容範囲だが、たとえば誇大広告にあたることは許されない。

なかなか一概に基準を設けることはむずかしいですが、違法になるような場合は明らかに良くないということです。目にする宣伝では、まさに違法にならないぎりぎりの工夫がなされていると言えるでしょう。

さて、講座が終わってから面白い質問を受けました。

【問】 ウィッグ(かつら)を使うのは嘘になるか。

なかなかの難問? 嘘かどうかの判断には「知るべき相手には知るべき情報を与える」という原則があります。ですから、病気などで使用するなど正しい理由がある場合はかまわないでしょうし、年齢詐欺などのために使用するなら罪になるでしょう。

(文 酒井俊弘補佐司教)

新しくなる典礼⑥「ミサ」が変わってしまうの?

『新しい「ミサの式次第と奉献文」の変更箇所』

～ 2022年11月27日(待降節第1主日)からの実施に向けて～



奉献文(エウカリスティアの祈り)の続きです。ほとんど司祭のことばですが、少しずつ変更しています。

【感謝の典礼】 その2

【奉献文(エウカリスティアの祈り)】

◎叙唱: 司祭は、その日にふさわしい叙唱を選んで唱えます。

◎感謝の賛歌(サンクトゥス): 他の賛歌と同じく口語に変更され、ラテン語の表題が加えられました。

・「万軍の」は、戦いを連想させる表現なので変更されました。

聖なる、聖なる、聖なる神、**すべてを治める**神なる主。

主の栄光は天地に満つ。

天には神にホザンナ。

主の名によって来られるかたに賛美。

天には神にホザンナ。



第一～第四奉献文が変更されましたが、今回はよく使われる「第二奉献文」に沿って説明しましょうね。

【第二奉献文】感謝の賛歌(サンクトゥス)の後、司祭が唱えます。

まことに**聖なる神**(現行:「まことにとうとく」)すべての聖性の源である父よ、いま、**聖霊を注ぎ**、この供えものを**聖なるもの**としてください。

・司祭のことば:「割って」は「**裂いて**」に変更されます。

パンを取り、感謝をささげ、裂いて、弟子に与えて仰せになりました。

・司祭のことば:「食事の終わりに」は「**食事の後に**」に変更されます。

◎記念唱: 会衆の応唱は3種類の中から選ぶことになりました。いずれも、復活された主キリストに向けられたことばであることが分かるように訳されました。一例を紹介します。

司祭: 信仰の神秘。

会衆: **主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで。**(現行: 主の死を思い、復活をたたえよう、主が来られるまで。)

司祭: **聖なる父よ、わたしたちはいま、主イエスの死と復活の記念を行い、み前で**(現行: ここで)あなたに奉仕できることを感謝し、いのちのパンと救いの杯をささげます。

司祭: 世界に広がるあなたの教会を思い起こし、教皇○○○○、わたしたちの司教○○○○、すべての**奉仕者とともに**(現行: 教役者をはじめ)**あなたの民をまことの愛で満たして**(現行: 全教会を愛の完成に導いて)ください。

司祭: また、復活の希望をもって眠りについたわたしたちの**兄弟姉妹**(現行: 兄弟)と、**あなたのいつくしみのうちに亡くなったすべての人**(現行: すべての死者を)心に留め、あなたの光の中に受け入れてください。**いま、ここに集う**(現行: なお)わたしたちをあわれみ、神の母おとめマリアと聖ヨセフ、使徒とすべての時代の聖人とともに、永遠のいのちにあずかせてください。

(文・絵 大阪教区典礼委員会)

「生きる」— 難民移住者

思いつめ、混乱する人

ハワさん(仮名)は夫から日常的に暴力をふるわれていました。悩んだ彼女は教会へ相談に行きました。しかし「教会では何もできない」と言われ、一人で夫の暴力に耐えていました。

夫の暴力はエスカレートしてゆき、ある日、とうとう夫が刃物を振り回して警察沙汰となり、幼い子どもは児童相談所へ一時保護されました。ハワさんは相談員の助言を受けて子どもを連れて帰国しました。

数か月が経って、ハワさんはもう一度夫とやり直すため、子どもを両親に預け、



単独で日本へ戻りました。しかし夫はモラルハラスメントを繰り返して、ハワさんがどれほど懇願しても暴力をやめることはありませんでした。

ある教会でのミサの後、ハワさんの体の傷に気づいた。

た神父さんが「どうしましたか」と声をかけました。ハワさんが事情を話すと、その神父さんは彼女にシナピスの電話番号を教えました。こうしてハワさんは私たちとつながり、私たちはハワさんと一緒に区役所に行ったり、離婚調停に備えて弁護士を探したりしました。が、ことは単純ではありません。

周囲が細心の注意を払ってハワさんの身の安全確保に努めているのに、ハワさんは荷物を取りに自宅に戻ったり、夫からの電話に出たりしてしまったりしたものです。から、相談員とこじれてしまいました。そこで私は再びハワさんに付き添って役所へ行きました。私はハワさんのそばに座り、平易な

(文 シナピス事務局)

ピスカルド篤子

訃報

アンドレ・ボーガルト神父(淳心会)は、7月18日、姫路聖マリア病院で悪性腫瘍のため帰天。85歳。ベルギー出身。



会仁豊野レジデンスの院長を務めた。マザー・テレサ共働者の指導者として長年活動を続けていた。

Sr ヴェロニカ中村房枝(援助修道士)は、7月9日、腹部大動脈瘤破裂のため帰天。88歳。山口県萩市出身。奉獻生活62年。



かわり、特に障がいのある子どもと家族をサポートすることを通して福音宣教に励んだ。小教区において、信徒と協力して毎朝のミサの準備を担当。いつも優しい笑顔で人びとと交わり、地域の人びとから愛される人柄であった。

1961年、司祭叙階。62年来日。64年、75年に広島教区で司牧。その後ベルギーにて音楽を学び、76年、88年に金剛教会の主任司祭として司牧。97年、2008年、東京教区にて司牧。08年、20年、淳心

1960年の初誓願後、養成期間を経て保育園、幼稚園、児童館の幼児クラブなどで会計事務・受付に従事し、その傍ら児童や父兄とのか

Sr マリア・ジェネヴィヴ佐藤時子(聖フランシスコ病院修道女会)は7月17日、老衰のため帰天。96歳。長崎県大村市出身。奉獻生活68年。入会前に薬剤師として医療現場で働きながら受洗し修道生活



日本語で丁寧に保護の制度を説明し、役所の人には彼女の言わんとする言葉の意味を補足しました。相談員に「本気で夫と離婚する気があるのですか」と問われてハワさんは答えました。「私はカトリックだから離婚してはいけなくて」「そんな……殺されてからでは遅いのですよ」「どうしたらいいかわからない」



年10月の初誓願後は、姫路聖マリア病院、長崎聖フランシスコ病院で誠実丁寧な薬剤師、またその責任者として奉仕した。その間には管区顧問や修道院長なども歴任。Sr 佐藤の特徴は何事に対しても上品で穏やかでいたこと、やさしい笑顔と心遣いで、出会う方々へ聖なる雰囲気を与えていた。

来、見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第3編:使徒職

日時 9/22(木)18:30~20:00
講師 酒井俊弘補佐司教
場所 サクラ ファミリア /YouTube配信あり
問 ☎06-6941-9700
主催 使徒職養成委員会

2022年度 諸宗教活動◆第2回 新宗教との対話:講話

テーマ 「白光真宏会に出会いましょう」
日時 9/30(金)18:30~20:00
講師 岡本敬子師(白光真宏会 大阪支部長)
場所 大阪教区 本部事務局 1階会議室
問 ☎06-6941-9700
✉ird-ecm@osaka.catholic.jp
主催 諸宗教対話委員会

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪教区で働く司祭・修道者にご自身の体験をわかちあっていただきます

日時 10/13(木)19:00~20:30 (夜の部)・10/14(金)10:30~12:00(昼の部)※両日とも同じ内容となります
おはなし 第1回 竹延真治神父(クラレチアン宣教会・今市教会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆ルカ福音書をとよむ~C年ルカ福音書への導入~

日時 第2(月)13:30~15:00 (4~12月開講)
参加費 ¥500

「新生の明日を求めて」読書会◆大阪教区のシノダリティ(ともに歩む)の原点を確認しよう

日時 毎週(月)(第2は休み)14:00~15:30
担当 松浦信行神父

聖書通読会◆聖書のダイナミックな流れが感じられます

日時 毎週(木)10:00~11:30
担当 松浦信行神父

「YOUCAT(青年向けカテキズム)」勉強会◆老いも若きも、キリスト教を理解しよう

日時 毎週(金)19:00~20:00
担当 松浦信行神父

祈りのよる◆灯りをかこみとともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日 19:00~19:30
問 サクラ ファミリア ☎06-6225-8871
✉f.sacra@osaka.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会
日時 9/4~9/25(日) 4回14:00~15:30

参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 次回2023年2/4~3/25(土) 8回 17:30~19:00
参加費 ¥10,000(2名)
問 ☎078-851-2846
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆修道者の召命黙想会(修道生活の召命を求めている独身男女)
日時 9/10(土)10:00~9/12(月)8:00
指導 未定
参加費 ¥3,000

◆日帰り黙想会

日時 9/22(木)・9/23(金)10:00~15:30
指導 染野治雄神父(9/22) 山内十束神父(9/23)
参加費 ¥3,500

◆週末黙想会

日時 9/30(金)17:00~10/1(土)15:30
指導 染野治雄神父
参加費 ¥9,000

◆聖地エルサレムを学ぶ

日時 第3(木)10:00~12:00
指導 笹田六合豊修道士
参加費 ¥1,000

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第2・4(水)10:00~12:00
指導 染野治雄神父
参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・第3(水)10:00~12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

講座・研修会

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 毎月第3(金)10:00
場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000
問 岩村 ☎070-5045-7127
主催 神戸国際支縁機構

集い

シナピス主催◆オンライン祈りの集い~世界平和のために祈ろう~

日時 毎月第2木曜日 20:30から30分
テーマ いのちと向き合う
参加方法 Zoom (100名まで参加可能)
Zoomミーティング ID: 761 071 2034
パスコード: 123456
主催 社会活動センター・シナピス
問 ☎06-6942-1784
☎06-6920-2203
✉sinapis@osaka.catholic.jp
HP https://sinapis.osaka.catholic.jp/

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土)14:00~16:00
場所 大阪YCWセンター (またはZoom)
問 レネ神父・水元 ☎072-232-8063
✉osakaycw@gmail.com
HP http://www.ycw.jp/

要約筆記グループ“エッファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフトcaptiOnlineを使いパソコンまたはスマホで練習します。
日時 毎月第2(水) 13:00~15:00
場所 教区本部事務局 1階会議室
問 障がい者委員会 ✉dis@osaka.catholic.jp
主催 要約筆記グループ “エッファタ!”

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

日時 第3(日)14:00~16:00
場所 姫里集会所
申込 吉川まで
問 ☎078-583-2525

カ障連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方
日時 奇数月・第2(火) 13:30~15:00
場所 姫里集会所
申込 笠松まで
問 ☎090-5661-4324
☎072-722-0271
✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

マザー・テレサ共労者の集い コロナ禍が収まり次第再開

司教予定

(下記「行事等日程」以外)

- 9/6(火)~13(火) ショファイユの幼きイエズス修道会(本部) 黙想会(+S)
- 9/18(日) 鈴蘭台教会40周年記念ミサ(+M) 仁川教会堅信式(+S)
- 9/19(月・祝) 和歌山地区大会(+S)

+M=前田万葉大司教
+S=酒井俊弘補佐司教



案内・報告

2022年度夏 人事異動

※Bはブロックの略

【北摂地区】

▽ナザリオ・プラザ神父(御受難修道会)は、池田教会(北摂西B)主任から帰国へ

▽中村克徳神父(同修道会)は、日生中央教会(北摂西B)主任から、池田教会(同B)主任へ

▽島基幸神父(同修道会)は、宝塚黙想の家から、日生中央教会(北摂西B)主任へ

(いずれも9月25日付)
【大阪北地区】
▽Sr吉住映子(大阪聖ヨゼフ宣教修道女会)は大阪梅田B協力から離任へ (6月30日付)

新設

【きぼうの家 看護小規模多機能型居宅介護事業】
〒544-0004 大阪市生野区巽北1-3-17
☎06(6752)8100
☎06(6752)8101

【大阪信愛学院大学・短期大学】
(22年4月より大学が開学)

電話番号変更

【御受難修道女会】
IP電話を削除

【聖フランシスコ病院修道女会】
▽姫路第二修道院・修練院
☎079(241)7842

【高槻マリア・インマクラーダ幼稚園】
☎072(668)3039
☎072(668)3029

名称変更

【ヴェリタス城星学園中学校・高等学校】
(旧 城星学園中学校・高等学校)
(22年4月付)

【日本カテキスタ事務局(NCK)】
(旧 NCK事務局(日本カテキスタ会))

編集後記

DVDで映画「461個のおべんとう」を観ました。お父さんが息子のためにお弁当を毎日作る物語です。▼お父さんは、工夫を凝らした弁当に愛情を詰めます。それを食べて弁当箱を返す息子との間に、ぎこちないけれど、親子の絆が育っていくのです。弁当の蓋を開けた時のような、何とも言えない感動が味わえる映画です。▼イエスは最後の晩餐の時、「これは、あなたがたのために渡されるわたしのからだ」(ミサのことば)と告げ、パンを弟子たちに配りました。ミサがささげられる時、いつもそのパンを味わうことができますとも約束されました。▼ご聖体には、イエスの愛情が詰まっています。弁当のやり取りと同じように、私たちはご聖体を通して、イエスとの愛の絆を育んでいるのです。
(広報委員会 川柳裕明)

行事等日程

| 9月 | | 10月 | |
|----|---|-----|---|
| 1 | 木 | 23 | 金 |
| | | 25 | 日 |
| | | 28 | 水 |
| 4 | 日 | 10月 | |
| | | 5 | 水 |
| | | 6 | 木 |
| 14 | 水 | 16 | 日 |

14時 病者・障がい者とともに歩むミサ(カテドラル)

〔常任司教委員会〕

すべてのいのちを守るための月間(~10/4迄)

世界難民移住移動者の日(献金)

教区健康の日(教区月修)

10時 顧問会

〔常任司教委員会〕

INTERNATIONAL DAY